

2012年3月期決算 通期アナリスト向け決算説明会 質疑応答摘録

平成24年5月8日
富士重工業株式会社

Q : 2013年3月期の業績計画では、売上高が前年比23%増、売上台数は13%増、生産台数は20%増の計画になっている。売上と売上台数、生産台数の伸び率に差が生じている要因を教えてください。

A : 売上高、販売台数、生産台数の前年比にギャップが生じています。売上高、生産台数には、トヨタ自動車株式会社との共同開発車のうち、トヨタ向け分が含まれていますが、販売台数には含まれておりません。以上のことから、このようなギャップが発生しています。

Q : スバル BRZ の収益性について、今期の計画にはどのように影響しているか、教えてください。

A : スバル BRZ の収益性は、地域によって異なり、国内の収益性が一番高くなります。海外においては、為替などを同じ条件で見た場合、スバルの既存車種に比べると、レガシィには及ばないものの、それ相応の収益性を持っています。

Q : 今期720億円となる設備投資額の内容について、2013年3月期末の各工場別の生産能力とあわせて教えてください。

A : 設備投資で一番大きな要因となるのは、エンジンやトランスミッションなどのパワーユニット系の生産能力増強分です。現在、幸いなことに好調な販売が続いており、生産能力増強を前倒しする必要があるため、720億円まで増やしています。2013年3月末時点での生産台数は、標準稼働状況で本工場が165千台、矢島工場が422千台、米国が17万台となり、トータルでは約75万台となります。ただし、どの車種が売れるかによって作りきれなくなる場合もあります。

Q : 中期経営計画について、為替前提を10円円高に変更した上で、営業利益計画1,200億円は据置いた。為替の影響を考慮すれば、実質的には営業利益ベースで上積みされた印象がある。営業利益1,200億円の前回計画と今回計画における変動要因について、教えてください。

A : 今年度においても海外での販売台数が増えることで、為替の影響度は大きくなります。円高に見直した為替影響分をどのように取り戻すかということになりますが、そのうちの1つが、追加の原価改革300億円となります。その他には販売台数の増加など、これからの収益改善活動等で1,200億円の営業利益計画を実現したいと考えています。

Q：中国市場での完成車ビジネスについて、持続可能性をどのように考えているか教えて欲しい。

A：現在のスバルの中国販売は、付加価値の高いブランドという状態です。特にフォレスターとアウトバックが高い評価をいただいております。まだまだ拠点数も少ないので、付加価値を大事にしながら、完成車の販売を伸ばしていきたいと考えています。加えて、新車販売に伴う周辺利益を取り込む事が大事だと認識しており、取り組んでおります。

Q：中期経営計画について、300億円の原価低減追加分について、どのようなことを検討しているか教えて欲しい。

A：原価低減の追加分 300億円というのは、元々の計画に対して上乗せするという数字です。そもそもの中期経営計画では、それぞれの開発車について目標原価を達成するということを前提にしていました。これに対して今回発表した追加分 300億円は、色々な開発車の目標原価を過達するという内容が一つ。二つ目に、既に立ち上がっている車の原価をさらに下げること。三つ目は、今回パワーユニットを一新しており、さらに原価低減しようというものです。これら三つの取り組みが大きな柱になっています。

Q：中期経営計画の営業利益目標 1,200億円について、収益構造は地域的に見てどのようになるのか。

A：営業利益計画 1,200億円については絶対額をしっかりと仕上げていきます。地域別の構成につきましても、米国での利益構成を増やしていきたいと考えています。今、スバルは全世界で勢いがありますが、米国の販売をどのように見るかというのはとても大事だと認識しています。米国での販売は底固い勢いがありますので、具体的に利益をものにしていくことが大事です。

Q：今後、どのように収益性の改善を行っていくか、教えて欲しい。

A：米国、中国、日本と、好調な販売が続いていますが、市場によってはまだ発売していない商品がいくつかあります。例えば、XVは昨年9月に欧州で、その後中国でも発表し、ともに好評をいただいております。しかし、米国、日本についてはまだ発売を開始していません。また、SUVの次期車を年の後半に発売する予定となっており、少なくとも2つの車種の導入がこれからとなります。商品の仕込みを如何に続けていくかということが重要だと考えます。販売が見込める商品をまだ出さず持っているという状態にあり、そういったことも含めて、収益性の改善を図っていきたいと考えており、また、図れると思っております。加えて、マーケティングや販売網の強化等は逐次行っています。

Q：米国について、今回、中期経営計画の計画台数に3万台が追加されたが、その先をどう考えているか。

A：中期経営計画の期間中にSIAでの生産能力強化を行うというのは決定事項です。その先の更なる生産拡大についても検討を開始します。当社としては、打てる手は打つことを決めて今日発表しましたので、更なる生産拡大については、基本的には2016年3月期以降となりますが、あらゆる可能性を検討しながら、時期についても前倒しできるように考えていきます。

以上